



management
経営
探訪

ターボチャージャー部品製造に特化し 世界シェア50%を堅持する

秋田青木精機株式会社 代表取締役社長 青木眞治氏

日本では普及していないターボ車だが、世界的に見ればむしろ主流で、搭載車は今後も増えると言われているとか。そんな成長が見込める分野で世界のターボチャージャーメーカーに部品を供給している秋田青木精機株式会社の青木眞治社長に現況と今後の経営戦略を伺った。

世界的には増えているターボ車 その半数で採用される部品を製造

当社は秋田県と旧合川町の誘致企業として現在地に進出し、1989年に操業を開始しました。埼玉県熊谷市に本社がある青木精機工業が親会社で、その国内製造拠点という役割を担っています。旧鷹巣町に進出していたもう一つのグループ会社と2010年に経営統合して現在の社名で再スタートを切りました。

私は青木精機工業と秋田青木精機の両方の会社の代表者で、両社はもともと一体的に事業を行っているのです。この工場には親会社である青木精機工業の本社機能の一部も秋田事務所として設けています。

当社で製造しているのは自動車部品で、6割がターボチャージャー部品、残りがパワーステアリングやオートマチックトランスミッションの部品です。

ターボ車は日本ではあまり普及していませんが、世界的に見れば需要は旺盛で、特にヨーロッパでは自動車の60%がターボ車です。ヨーロッパではCO₂の排出が少ないディーゼルエンジンが普及していて、ターボを装着することで小さなエンジンで大きな出力を出そうという考え方が浸透しています。

今は全世界で約2000万台がターボ装着車。2020年には倍になるだろうと予測されています。

今後は海外との取引は円建てで行っているのですが、ユーロ建てにしてほしいというヨーロッパの圧力はとても強く、それでは為替差損

高い製造技術と品質が評価され 広範な一次メーカーへ製品を納入

ターボチャージャー自体は国内外の最大手4社で全世界の95%を製造しています。当社ではその4社を含めてほとんどすべてのターボチャージャーメーカーと取引があり、シャフトという部品を納入しています。そのため、全世界のターボ車の約半数に当社の部品が使われていることとなります。

長期的に見れば将来は電気自動車や燃料電

池車が普及してくるでしょうが、向こう10年以上はやはりレシプロエンジンが主流だし、なくなることはないだろうとも言われています。

成長分野なので新規参入するメーカーもあるのですが、超高温で酷使される部品なので高い製造技術と品質信頼性が求められ、それには、10年以上前から客先要求に応じて実績を積み重ねてきた当社に一日の長があるのではないかと自負しています。

ターボのシャフトは、従来は太い棒を削ってシャフトの形に整形していたのですが、それでは製造原価が高くなってしまいます。そこで、最初にシャフトの形に整形したものを羽根と溶接する工法を当社が開発しました。この工法で製造をしているのは国内ではおそらく当社のほかにはないでしょう。

国内工場は「マザー工場」として 海外での現地生産を積極的に展開

世界の製造業は部品を現地調達しようという流れになってきているので、当社でも上海にグループ会社、タイに関連会社を設立して現地生産し、現地のアセンブリメーカーに納入しています。来春にはスロバキアに現地法人を立ち上げてヨーロッパ市場向けの部品を現地生産します。

今は海外との取引は円建てで行っているのですが、ユーロ建てにしてほしいというヨーロッパの圧力はとても強く、それでは為替差損

が受け入れがたいレベルになってしまいます。それが海外進出をためらわない大きな理由になっています。

ただ、生産拠点を完全に海外移転することは考えていません。日本人は開発能力に優れているので、生産ラインの新規開発、製造原価をおさえる研究、材質や工程の改良などは国内で行う方が有利です。秋田のこの工場もそんな「マザー工場」としての使命が大きくなっていくと考えています。

秋田青木精機株式会社

〒018-4231
北秋田市上杉字金沢417-2
Tel.0186-78-4078
Fax.0186-78-2405



旧合川町内の本社工場の他、旧鷹巣町に第2工場がある。



- A. ターボチャージャーのシャフトと呼ばれるパーツの製造に特化した事業を行っている。
- B. ターボ用のシャフトを鍛造ではなく切削で製造する工法は青木社長の提案。
- C. 約140名の従業員は2直シフトだが、製造自体は自動化が進んでいる。
- D. 精度を求められるパーツなのでロット単位の抜き取り検査で高い歩留まりを維持している。
- E. 秋田の工場で製造しているのは主に国内需要分だが、一部は海外に出荷される。
- F. ターボチャージャーのカットモデルで説明する青木社長。

